




まず、インフルエンザ感染症とは？

- インフルエンザウィルスによる気道感染症であり、「かぜ」とは異なり、全身症状が強い

| 感染（1～3日） | 発症（全身症状は1～3日） | 安静（3～7日間） | 軽快（発症後7～10日） |
|---|---|--|---|
| 潜伏期間  | 38度以上の発熱 咳・鼻水 関節痛  のどの痛み 頭痛・筋肉痛 全身倦怠感 |  |  |



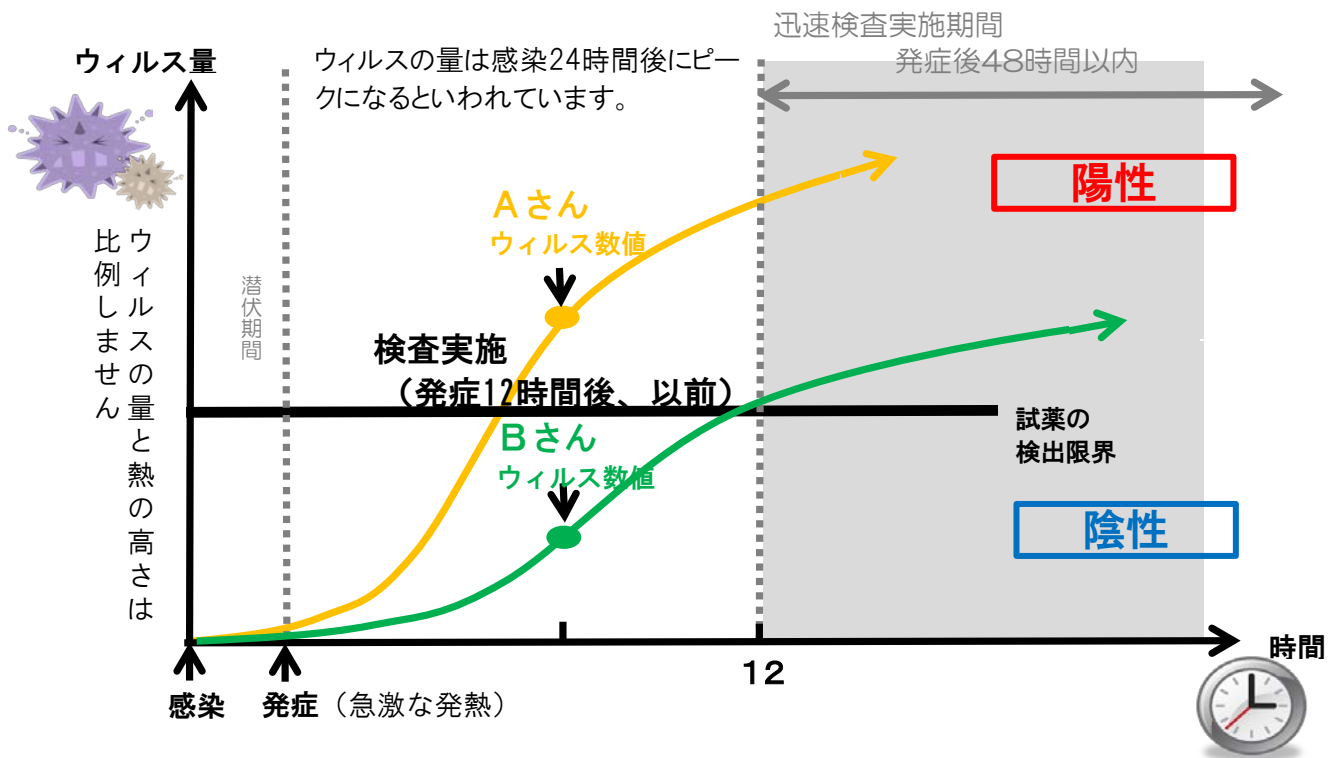
インフルエンザの診断はどうやってするの？

- 鼻咽頭ぬぐい液を採取し、インフルエンザに罹患したかどうかを判定。
（ウィルス量がすくなくと陰性となるため、**発症後12時間以上経過していることが望ましい**）
当センターでは、検査結果が陰性の場合原則抗インフルエンザ薬は処方いたしません。
- 流行時には症状・診察からインフルエンザと診断できることもある。



インフルエンザ検査について！！

- 発症（急激な発熱）後、12時間以降が検査に適しています。
検査の時期が早いと下図のBさんの様にインフルエンザに感染しているにもかかわらずウィルスの量が少なく検査の結果が陰性となってしまいます。
その為、**発症後すぐの検査は** おすすめいたしません。





インフルエンザの治療はどうしたらいいの？

- 安静・休養し十分な睡眠、十分な水分補給（お茶・ジュース・スープなど）が原則。部屋は湿度を高く保ち（50-60%）、時々部屋の空気を入れ替える。
- 抗インフルエンザ薬も効果的であるが、注意すべき点がいくつかある。

| 当センター 在庫薬品 | タミフル | リレンザ | イナビル |
|---------------|--|-----------------------|---------|
| 服用方法 | 内服 | 吸入 | 吸入 |
| | 2回/日 × 5日間 | 2回/日 × 5日間 | 1回/日 のみ |
| 適応 | 発症から48時間以内 | | |
| 注意点 | 1歳未満は慎重投与 原則10歳以上は使用しない | 喘息患者には慎重投与（誘発する恐れがある） | |
| | 発症後、投薬の有無に関わらず [※] 異常行動が報告されているため、 診断後少なくとも2日間は就寝中もふくめて一人きりにならないように見守る | | |

※異常行動：普段と違う突飛な行動（急に走りだしたり、うろうろしたり）。うわごとや興奮したりする。幻覚を訴えることもある。

- その他、症状緩和目的で対症療法薬（咳止め・痰切り・解熱剤（アセトアミノフェンのみ））を処方することがある。



インフルエンザと診断されたら学校は何日休んだらいいの？

- 学校保健法により定められ以下の期間（2012年4月1日改正）

「発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日（幼児にあっては3日）を経過するまで」